

<内容>

専門職（精神科認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）によるひきこもりの相談支援、家族心理教育（家族教室）、訪問支援、居場所の確保、精神科医等のスーパーバイザーの確保。（ふらっとコミュニティに業務委託）

<実績>

	相談支援利用者数	家族心理教育開催数・延参加者数	訪問支援利用者数・延件数	居場所設置利用者数・延回数	日中一時支援移行者数・延回数	受診に結びついた件数	復職・復学・進学者数	利用者への個別対応又はグループ活動	精神科医等スーパーバイザーの確保	一般就労※
R元年度	来所 138 人 電話 501 件	60 回 延 472 人	5 人 延 25 件	34 人 延 977 回	10 人 延 384 回	2 件	1 人	115 回	1 回	6 人
R2年度	来所 135 人 電話 318 件	59 回 延 330 人	8 人 延 32 件	38 人 延 1535 回	11 人 延 275 回	0 件	0 人	48 回	0 回	7 人

※福祉就労は含まない。

《その他 PR 活動等》

ひきこもり支援セミナーの開催。テレビでのひきこもり特集への取材協力。

<評価>

相談利用者数、家族心理教育延参加者数が減少したが、アウトリーチの利用者数及び延件数が増加した。R2年度も引き続き、ひきこもりの背景や効果的なコミュニケーションなどについて理解を深める家族心理教育プログラムによる家族への支援を重点的に行った。その結果、アウトリーチをしなくても居場所へ出てこられる人が増え、居場所利用者が大幅に増加した。また、当事者への支援を強化するため、各種研修会に参加し、スタッフの資質向上、スキルアップに努めた。コロナ感染症の影響によりWRAP（元気回復行動プラン）、精神科医等スーパーバイザーの確保が未開催となったものの、パソコン教室等、就労に向けた準備支援の継続的な実施により、7名の一般就労に結びついた。

<今後の具体的な取り組み>

- (1) 家族会「陽の杜」運営サポート、家族支援の強化
家族会の自主的な活動の発展に向けて、今以上に家族を支援していく。
- (2) 当事者による相談制度、UFE（ウッフエ）の推進
当事者自身がひきこもり経験者として、自らの経験をもとに当事者からの相談を受けるUFEを推進し、相談体制の充実をはかる。
- (3) 不登校児童・生徒の家族支援、教育機関との連携強化
ひきこもり予備軍である不登校児童・生徒に対し、早い段階で教育機関と連携し、家族支援を通じた包括的なケアの実践をめざす。
- (4) ひきこもり者への居場所設置事業（プログラム等）の充実
ストレスマネジメントやソーシャルスキル等、各種プログラムを定期的で開催し、居場所から社会復帰へつながるよう、支援内容を充実させる。
- (5) ひきこもり者への就労体験・準備支援
直ちに一般就労を目指すことが難しいひきこもり者に対し、アウトリーチ等による継続的な個別支援を実施するとともに、若者サポートステーション等関係機関と連携し、地域において対象者が馴染みやすい就労体験先を開拓・マッチングする取組を行う。